

参考文献

- 1) 縣拓充・岡田猛 (2010) 「創作の過程や方法を知る」美術展示及びワークショップの効果, 美術教育学:美術科教育学会誌 (31), 美術科教育学会, 13-27.
- 2) 縣拓充・岡田猛・杉本覚 (2012) 親子を対象にしたアートとの日常的な関わりを促すワークショップの効果, 日本教育心理学会総会発表論文集 (54), 日本教育心理学会, 423.
- 3) Altman, Irwin. & Rogoff, Barbara. (1987). World Views in Psychology: Trait, Interactional, Organismic, and Transactional Perspectives, In Stokols, Daniel. & Altman, Irwin. *Handbook of Environmental Psychology*. New York: John Wiley & Sons, Inc., 7-1.
- 4) 安斎勇樹・森玲奈・山内祐平 (2011) 創発的コラボレーションを促すワークショップデザイン, 日本教育工学会論文誌 35 (2), 135-145.
- 5) Glaser, B. G., Strauss, A. L. (1967). *The Discovery of Grounded Theory: Strategies for Qualitative Research*. Chicago: Aldine Publishing Company. (グレイサー&ストラウス, 後藤隆他訳, 1996, データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか, 新曜社)
- 6) Birgit, Recki. (2001). W.ヘンクマン&K.ロッター編, 後藤狷士・武藤三千夫・利光功・神林恒道・太田喬夫・岩城見一監訳, 美学のキーワード, 勁草書房, 45-46.
- 7) Bruner, Jerome. (1996). *The Culture of Education*. Cambridge University Press. (ブルーナー, 岡本夏木・池上貴美子・岡村佳子訳, 2004, 教育という文化, 岩波書店)
- 8) Colwyn, Trevarthen. (1979). Communication and cooperaton in early infancy: a description of primary intersubjectivity, *Before Speech*, Cambridge University Press. (C.トレヴァーセン, 第3章 早期乳児期における母子間のコミュニケーションと協応: 第一次相互主体性について, 鯨岡峻・鯨岡和子訳, 1989, 母と子のあいだ, ミネルヴァ書房, 69-101)
- 9) De Mause. L. (1982). *The Evolution of Childhood from FOUNDATION OF*

- PSYCHOHISTORY, New York: CREATIVE ROOTS, Inc. (L. ドゥモース著, 宮澤康人他訳, 1990, 親子関係の進化—子ども期の心理発生的歴史学—, 海鳴社)
- 10) Efland, A. D. (2002). *Art and Cognition: Integrating the Visual Arts into the Culture*, New York: Teachers College, Columbia University. (アーサー・D. エフランド, ふじえみつる 監訳, 2011, 美術と知能と感性—認知論から美術教育への提言, 日本文教出版)
 - 11) 遠藤友麗 (2000) アート・感性・総合学習—カリキュラムデザインの時代—, アート・感性・総合学習—21世紀教育フォーラム, 女子美術大学教職課程研究室編, 紫峰図書, 40.
 - 12) Friedrich, Schiller (1795). (フレデリック・シラー著, 石原達二訳, 1997, 人間の美的教育について, 美学芸術論集, 富山房百科文庫)
 - 13) 藤原和幸 (1997) 美術教育の領域と映像表現活動, 美術科研究, 大阪教育大学・美術学科, 127-141.
 - 14) 降旗千賀子 (1997) 日本の美術館における「ワークショップ」の発生, 全国美術館会議教育普及ワーキング・グループ活動報告1: 美術館の教育普及・実践理念とその現状, 52-53.
 - 15) 降旗千賀子 (2011) ワークショップで育まれた“人間関係”—目黒区美術館の蓄積, 高橋陽一編, 造形ワークショップの広がり, 武蔵野美術大学出版局, 67-81.
 - 16) 古澤頼雄・斉藤こずえ・都筑学, 日本発達心理学会監修 (2000) 心理学・倫理ガイド—リサーチと臨床, 有斐閣.
 - 17) Gifford, Robert. (2007). The Nature and Scope of Environmental Psychology. In Gifford, Robert. *Environmental psychology: Principles and Practic*. 4thed. Canada: Optomal Book, 1-21.
 - 18) 刑部育子 (2012) 分析ツールが実践を開くとき, 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編, ワークショップと学び3 まなびほぐしのデザイン, 東京大学出版会, 255-279.
 - 19) 畑中朋子 (2006) アートとメディアと人々が出会う場としての地域文化施設—e-とびあ・かがわ「ワークショップ・オン・ワークショップ2005」及び他の事例からの考察, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (26), 美術科教育学会, 323-335.
 - 20) 初田隆・吉田和代 (2012) 「胎内記憶画」を用いた母子参加型ワークショップの研究, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (33), 美術科教育学会, 359-373.
 - 21) 東山明・福本謹一 (2002) 中学校美術科ワークショップ〈1〉平面造形編, 明治図書出版.
 - 22) 東山明・新関伸也 (2002) 中学校美術科ワークショップ〈2〉立体造形・総合造形編, 明治図書出版.

参考文献

- 23) 東山明 (2002) 中学校美術科ワークショップ〈3〉イメージと発想の展開編, 明治図書出版.
- 24) 広井良典 (2009) コミュニティを問いなおす一つながり・都市・日本社会の未来, ちくま新書, 248.
- 25) 広石英記 (2003) 市民教育としての協働経験の可能性—新しい学びのモードの模索—, 市村尚久・早川操・松浦良充・広石英記 経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か—, 東信堂, 55-77.
- 26) 広石英記 (2006) ワークショップの学び論—社会構成主義からみた参加型学習の持つ意義—, 日本教育方法学会紀要, 教育方法学研究 (31), 日本教育方法学会, 1-11.
- 27) 広松渉・増山真緒子 (1986) 共同主観性の現象学, 世界書院.
- 28) Husserl, E. G. (1936). *Die Krisis der europäischen Wissenschaften und die transzendente Phänomenologie: Eine Einleitung in die phänomenologische Philosophie. Beograd: Sonderabdruck aus "Philosophia"*. (フッサール著, 1995, 細谷恒夫・木田元訳, ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学, 中央公論新社)
- 29) 石川毅 (1985) 芸術教育学, 武藤三千夫・石川毅・増成隆士, 美学/芸術教育学, 勁草書房.
- 30) 岩城見一 (1997) 感性論—認識機械論としての「美学」の今日的課題, 晃洋書房.
- 31) 金子一夫 (2003) 美術科教育の方法論と歴史, 中央公論美術出版.
- 32) 笠原広一 (2010) ポストモダン以後の芸術教育の実践理論の地平試論, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (32), 97-109.
- 33) 笠原広一 (2011) 戦後の社会教育における芸術教育の位置づけ—北田耕也の芸術文化活動の研究をもとに—, 京都造形芸術大学紀要 GENESIS (15), 京都造形芸術大学, 242-255.
- 34) 笠原広一・山本一成 (2011a) 子ども・遊びと学び・感性を考える—新しい遊びと学びの体験と実践理論を探る研修会・報告書—, アート・コミュニケーション・デザイン編.
- 35) 笠原広一・山本一成 (2011b) 子ども・からだ・感じる・つながる—子どもの身体表現ワークショップと研修会報告書—, アート・コミュニケーション・デザイン編.
- 36) 笠原広一 (2012a) 芸術教育におけるコミュニケーション研究の試論—感性的コミュニケーションの視点から—, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (33), 美術科教育学会, 159-173.
- 37) 笠原広一 (2012b) 芸術教育における経験の質的研究の可能性—こどもの創作劇ワークショップにおける多声的ビジュアル・エスノグラフィー—, 京都造形芸術大学紀要 GENESIS (16), 京都造形芸術大学, 110-129.

- 38) 笠原広一 (2013) 絵画制作ワークショップにおけるビジュアル・エスノグラフィ―研究―観察視点の分析による実践者にとっての意味生成過程―, 第62回日本美術教育学会学術研究大会新潟大会, 新潟日報メディアシップ, 第62回学術研究大会要項, 18.
- 39) 笠原広一他編著 (2013) 子どもアート・カレッジ2012報告書, アート・コミュニケーション・デザイン.
- 40) 笠原広一・山本一成 (2013) からだでつながりを感じる体験とは何か, アートミーツケア学会オンラインジャーナル Vol. 5, アートミーツケア学会, 1-20.
- 41) 笠原広一 (2014) 感性的コミュニケーションによる幼児の芸術体験の分析―アート・ワークショップにおける体験と変容の意味について―, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (35), 美術科教育学会, 223-242.
- 42) 笠原広一 (2015a) 映像表現ワークショップでの変容体験と相互浸透についての考察―感性的コミュニケーションによるエピソード記述を基にして―, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (36), 美術科教育学会, 119-137.
- 43) 笠原広一 (2015b) 生命の力動を捉える Vitality 概念の考察―美術による協同的な表現活動を事例に一, 日本美術教育研究論集 2015, 公益社団法人日本美術教育連合, 1-12.
- 44) 笠原広一・春野修二 (2015a) 中学校美術科教育における関係性を育むワークショップ実践の研究 (1) ―生徒の実態把握のための映像表現を用いた予備的実践―, 福岡教育大学紀要第64号第6分冊, 福岡教育大学, 1-5.
- 45) 笠原広一・春野修二 (2015b) 中学校美術科教育における関係性を育むワークショップ実践の研究 (2) ―ペープサートをを用いた劇づくりの実践を通して―, 福岡教育大学紀要第64号第6分冊, 福岡教育大学, 1-5.
- 46) 上浦千津子 (2005) 社会に拓かれた美術教育の可能性2: 高大連携を機軸としたアート・ワークショップの実践事例を通して, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (26), 美術科教育学会, 165-178.
- 47) 上浦千津子 (2006) 社会に拓かれた美術教育の可能性3: 高大連携を基軸としたアート・ワークショップの実践事例を通して, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (26), 美術科教育学会, 121-133.
- 48) 片岡杏子 (2006) 地域コミュニティ施設における造形教育の現状と課題: 児童館の造形遊びワークショップを通して, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (26), 美術科教育学会, 135-146.
- 49) 片岡杏子 (2007) 社会教育としてのワークショップ: 公共的場面における「美術」をめぐる, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (28), 美術科教育学会, 131-142.
- 50) 勝山知香 (2010) ある自閉症の子どもの音楽療法場面の関係発達論的考察―子どもの主体としての心のありようの変容を捉える試み―, 中京大学大学院心

参考文献

- 理学研究科修士論文（未刊行）.
- 51) 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編（2012a）ワークショップと学び1 まなびを学ぶ，東京大学出版会.
 - 52) 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編（2012b）ワークショップと学び2 場づくりとしてのまなび，東京大学出版会.
 - 53) 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編（2012c）ワークショップと学び3 まなびほぐしのデザイン，東京大学出版会.
 - 54) 木下康仁（2003）グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践，弘文堂.
 - 55) 菊地奈緒美・荻宿俊文・脇本健弘・小林遼平（2012）コミュニケーション教育としてのワークショップについての考察—コミュニケーションを促す場面に着目して—，日本教育工学会論文誌 36，日本教育工学会，77-80.
 - 56) 菊屋吉生（2003）日本の古絵画を素材としたワークショップの実践について—大学・美術館・学校・街の連携，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第15号，山口大学教育学部，45-62.
 - 57) 久保田秀和・小早川真衣子・濱崎雅弘・中村嘉志・須永剛司・西村拓一（2011）PhotoPlayer：カード型タッチスクリーンを用いた日常写真の合奏表現，デザイン学研究作品集 Vol. 17，日本デザイン学会，24-29.
 - 58) 鯨岡峻（1986）母子関係と問主観性の問題，心理学評論，Vol. 29 No. 4，506-529.
 - 59) 鯨岡峻・鯨岡和子（1989）母と子のあいだ，ミネルヴァ書房.
 - 60) 鯨岡峻（1997）原初的コミュニケーションの諸相，ミネルヴァ書房.
 - 61) 鯨岡峻（1998）両義性の発達心理学—養育・保育・障害児教育と原初的コミュニケーション，ミネルヴァ書房.
 - 62) 鯨岡峻（1999a）関係発達論の構築—問主観的アプローチによる—，ミネルヴァ書房.
 - 63) 鯨岡峻（1999b）関係発達論の展開—初期「子ども—養育者」関係の発達の変容，ミネルヴァ書房.
 - 64) 鯨岡峻（2003）基調講演「感性的コミュニケーションと身体」，第五十四回舞踊学会大会報告，舞踊学会 26号，29-32.
 - 65) 鯨岡峻（2005）エピソード記述入門—実践と質的研究のために，東京大学出版会.
 - 66) 鯨岡峻・鯨岡和子（2007）保育のためのエピソード記述入門，ミネルヴァ書房.
 - 67) 鯨岡峻（2009）関係発達の考え方と感性的コミュニケーション，九州大学大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻主催実践こども学講演資料，5.
 - 68) 鯨岡峻（2013）なぜエピソード記述なのか—「接面」の心理学のために，東京大学出版会.

- 69) 鯨岡峻 (2014) ひとがひとをわかるということ—感性が活かされる世界は、客観科学と整合するか—, 感性フォーラム特別講演, 九州大学大学院統合新領域ユーザー感性学専攻主催, 2014年12月5日福岡市エルガーラホール.
- 70) 鯨岡峻 (2015) 保育の場で子どもの心をどのように育むのか—「接面」での心の動きをエピソードに綴る—, ミネルヴァ書房.
- 71) 黒田生子・別府玲子・服部琢・瀧本勲 (2004) 中途失聴成人の人工内耳装用効果の質的検討—日常生活における装用意義の視点から—, *Audiology Japan* 音声言語医学 47, 241-250.
- 72) Kobayashi, R. (1999). Physiognomic perception, vitality affect and delusional perception in autism, *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 53, 549-555.
- 73) K ppe. S., Harder. S., & V ever. M. (2008). Vitality affects, *International Forum of Psychoanalysis*. 17, 169-179.
- 74) Langer, Susanne. (1953). *Feeling and form; a theory of art developed from, philosophy in a new key*. London: Routledge & Kegan Paul.
- 75) Lave, J. & Wenger, E. (1991). *Situated Learning. Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge univ. Press. (ジーン・レイブ&エティエンヌ・ウエンガー著, 佐伯胖訳, 1993, 状況に埋め込まれた学習: 正統的周辺参加論, 産業図書)
- 76) 前田ちま子 (2002) なぜ“ワークショップ”だったのか, 高橋陽一監修, ワークショップ実践研究, 武蔵野美術大学出版局, 50-64.
- 77) 真壁宏幹 (2003a) 子どもの『美的経験』はいかに語りうるか—その基層としての「共鳴体としての身体」をめぐる—, 市村尚久・早川操・松浦良充・広石英記, 経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か—, 東信堂, 79-101.
- 78) 真壁宏幹 (2003b) 音楽療法との対話「音楽の力」についての一試論, 佐藤学・今井康雄編, 子どもたちの想像力を育む: アート教育の思想と実践, 東京大学出版会, 112-134.
- 79) Mark, Johnson. (2013). Identity, Bodily Meaning, and Art. Tone, Roald. & Johannes, Lang. *Art and Identity: Essays on the Aesthetic Creation of Mind*, New York: Rodopi B. V., Amsterdam. 15-38.
- 80) Massumi, Brian. (2008). The Thinking-Feeling of What Happens, 5 *Inflexions* 1. 1, *How is Research-Creation?* http://inflexions.org/n1_The-Thinking-Feeling-of-What-Happens-by-Brian-Massumi.pdf (2016年11月13日)
- 81) Mazumdar. Sanjoy. (2006). 環境心理学における「質的」研究. (マザムダー・サンジョイ著, 光安輝高訳, 南博文編, 心理学の新しいかたち 第10巻 環境心理学の新しいかたち, 誠信書房, 66-102)
- 82) 目黒実 (1996) チルドレンズミュージアムをつくらう— Knowledge begins in

参考文献

- Wonder, ブロンズ新社.
- 83) 目黒実 (2002) 学校がチルドレンズミュージアムに生まれ変わる一地域と教育の再生の物語, ブロンズ新社.
- 84) Merleau-Ponty, M. (1960) *Signes*. Paris. (メルロ＝ポンティ著, 竹内芳郎監訳, 1969-1970, シーニュ 1・2, みすず書房)
- 85) 三橋純予 (2008) アートマネジメントという新たな領域の考察: ミュゼオロジーのネクストステージとしての美術教育の可能性, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (29), 美術科教育学会, 525-537.
- 86) 美馬のゆり・山内祐平 (2005) 「未来の学び」をデザインする空間・活動・共同体, 東京大学出版会.
- 87) 南博文 (2001) まちの変化とNさんの生活世界, やまだようこ・サトウタツヤ・南博文編, カタログ現場心理学—表現の冒険, 金子書房, 140-147.
- 88) 南博文 (2004) 現場・フィールド—身のおかれた場, 無藤隆・やまだようこ・南博文・麻生武・サトウタツヤ編, 質的心理学: 創造的に活用するコツ, 新曜社, 19-20.
- 89) 南博文編著 (2006) 心理学の新しいかたち 第10巻 環境心理学の新しいかたち, 誠信社.
- 90) 三浦佳世 (2000) 感性認知, 行場次朗・箱田裕司編著, 知性と感性の心理学—認知心理学入門, 福村出版, 61.
- 91) 三浦賢治 (2012) ホスピタリティアート・プロジェクト—ワークショップ・展示—金沢市立病院における実践から— その1, 金沢美術工芸大学紀要 No. 56, 金沢美術工芸大学, 33-45.
- 92) 宮脇理 (1988) 感性による教育, 国土社.
- 93) 宮脇理・山口喜雄・山木朝彦 (1993) 感性による教育の潮流—教育パラダイムの転換, 国土社.
- 94) 村上タカシ (2009) 芸術表現教育における PBL (Project-Based Learning) の実践研究, 宮城教育大学紀要第44巻, 宮城教育大学, 95-108.
- 95) 茂木一司・吉田秀文・金澤貴之・手塚千尋・井上昌樹・鷺坂裕子 (2009) 知的障害者を対象にした造形と音楽のコラボレーションによる表現ワークショップ—「からだでつくろう!! からだでうたおう!!」を事例にして—群馬大学教育実践研究別刷第26号, 群馬大学教育学部附属教育臨床総合センター, 231-241.
- 96) 茂木一司他 (2010) 協同と表現のワークショップ: 学びのための環境デザイン, 東信堂.
- 97) 茂木一司・福本謹一 (2010) ワークショップの学びはどう評価したらいいですか?, 茂木一司他, 協同と表現のワークショップ: 学びのための環境デザイン, 東信堂, 119-121.

- 98) 茂木一司・足達哲也・鈴木沙代・金田佳子・吉崎希・堀口由三恵・遠藤翠・山口真央 (2011) 美術鑑賞教育へのワークショップ型授業の導入の試み—群馬大学教育学部附属小学校の事例—, 群馬大学教育学部紀要芸術・技術・体育・生活科学編第 46 巻, 群馬大学教育学部, 53-74.
- 99) 茂木一司・亀井章央 (2012) からだと造形のワークショップに関する実践研究—群馬大学教育学部附属特別支援学校高等部の事例—, 群馬大学教育学部紀要芸術・技術・体育・生活科学編第 47 巻, 群馬大学教育学部, 51-61.
- 100) 茂木一司・郡司明子 (2013) 小学校におけるワークショップ型学習に関する実践研究—お茶の水女子大学附属小学校の事例—, 群馬大学教育学部紀要芸術・技術・体育・生活科学編第 48 巻, 群馬大学教育学部, 53-66.
- 101) 茂木一司・手塚千尋・郡司明子・亀井章央・藤原秀博・飯島渉・森田智美・木村祐子・原田泰・曾和具之 (2013) Workshop on workshop による研修のデザイン, 群馬大学教育実践研究別刷第 30 号, 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター, 61-84.
- 102) 茂木一司・藤原秀博 (2014) 遠足プロジェクト—震災支援アートプロジェクトの実践—, 群馬大学教育学部紀要芸術・技術・体育・生活科学編 第 49 巻 群馬大学教育学部, 33-54.
- 103) 茂木一司・郡司明子・春原史寛・喜多村徹雄・藤原秀博・飯島渉・大塚裕貴・椎橋元貴・城田祐規・寺内愛乃・宮川紗織・鷲塚裕太郎 (2014) 地域アートプロジェクトにおける美術教育の実践—中之条ビエンナーレにおける表現と鑑賞のワークショップ—, 群馬大学教育実践研究別刷第 31 号, 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター, 47-77.
- 104) 文部科学省 (2010) 今, 求められる力を高める総合的な学習の時間の展開: 総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力, 論理的思考力, コミュニケーション能力等向上に関する指導資料, 文部科学省. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/02/17/1300459_1.pdf (2016 年 11 月 13 日)
- 105) 森玲奈 (2008) 学習を目的としたワークショップのデザイン過程に関する研究, 日本教育工学会論文誌 31 (4), 445-455.
- 106) 森玲奈 (2009) ワークショップ実践家のデザインにおける熟達過程—デザインの方法における変容の契機に着目して, 日本教育工学会論文誌 33 (1), 日本教育工学会, 51-62.
- 107) 森本孝 (1998) 三重の子どもたち展: 発見! わたしの村わたしの町 第 1 部—生活の現場から, 第 2 部—教育の現場から, (財)三重県立美術館協力会.
- 108) 長沢秀之 (2011) 美術と社会, 高橋陽一編, 造形ワークショップの広がり, 武蔵野美術大学出版局, 237-255.
- 109) 中野民夫 (2001) ワークショップ 新しい学びと創造の場, 岩波書店.

参考文献

- 110) Newson, John. (1978). *Dialogue and development, Action, Gesture and Symbol: The Emergence of Language*, Academic Press. (J. ニューソン, 第5章 コミュニケーション研究へのアプローチ, 鯨岡峻・鯨岡和子訳, 1989, 母と子のあいだ, ミネルヴァ書房, 163-178)
- 111) Newson, John. (1978). The growth of shared understandings between infant and caregiver, Bullock, M. ed. *Before Speech*, Cambridge University Press. (鯨岡峻・鯨岡和子訳, 1989, 母と子のあいだ, ミネルヴァ書房, 179-196)
- 112) 新妻健悦 (1996) 宮城県美術館・ワークショップ活動の記録「SYNC IN ART」VOL. 6 新妻健悦のワークショップ美術探検・演習—子供と美術をめぐって, 宮城県美術館.
- 113) 西野美佐子・西野毅史 (2013) 子どものレジリエンスを高める支援のあり方に関する一検討—アニメーション・ワークショップの効果—, 日本教育心理学会総会発表論文集 (55), 日本教育心理学会, 81.
- 114) 野口隆子 (2007) 多声的ビジュアルエスノグラフィによる教師の思考と信念研究, 秋田喜代美・能智正博監修, はじめての質的研究法:教育・学習編, 東京図書株式会社, 296-317.
- 115) 小串里子 (2000) ワクのない表現教室—自己創出力の美術教育, フィルムアート社.
- 116) 小串里子 (2011) みんなのアートワークショップ—子どもの造形からアートへ, 武蔵野美術大学出版局.
- 117) 及部克人 (1993) 地域の子どもの地域で祝う大道芸術展, 月刊社会教育, 1993年3月号, 44-45.
- 118) 鬼丸吉弘 (1981) 児童画のロゴス—身体性と視覚—, 勁草書房.
- 119) Read, Herbert (1956). *Education through Art*. (ハーバート・リード著, 宮脇理・岩崎清・直江俊雄訳, 2001, 芸術による教育, フィルムアート社)
- 120) 齋正弘 (1993) 宮城県美術館・ワークショップ活動の記録「SYNC IN ART」VOL. 2 宮城県美術館のワークショップ I 創作の基礎, 宮城県美術館.
- 121) 齋正弘 (1997) ワークショップ—方法論からのアプローチ, 全国美術館会議教育普及ワーキング・グループ活動報告1 美術館の教育普及・実践理念とその現状, 全国美術館会議, 55-56.
- 122) 齋正弘 (2002) ローレンス・ハルプリンとアン・ハルプリン, 高橋陽一監修, ワークショップ実践研究, 武蔵野美術大学出版局, 82-83.
- 123) 齋正弘 (2011) ファシリテーションの実際, 高橋陽一編, 造形ワークショップの広がり, 武蔵野美術大学出版局, 35-50.
- 124) 作田啓一 (1979) 青年期の感性, 岩波講座 子どもの発達と教育6 (青年期発達段階と教育3), 107, 110-112.
- 125) 作田啓一 (1993) 生成の社会学をめざして, 有斐閣, 24-27.

- 126) 佐々木健一 (1995) 美学辞典, 東京大学出版会.
- 127) 佐藤学・今井康雄編 (2003) 子どもたちの創造力を育む: アート教育の思想と実践, 東京大学出版会.
- 128) 佐藤学 (2003) はじめに 芸の技法を生の技法へ, 佐藤学・今井康雄編, 子どもたちの想像力を育むアート教育の思想と実践, 東京大学出版会, vii-x.
- 129) 柴山真琴 (2006) 子どものエスノグラフィー入門, 新曜社.
- 130) 柴田和豊編 (1993) メディア時代の美術教育, 国土社.
- 131) 椎塚久雄 (2013) 序章 感性とは, 椎塚久雄編, 感性工学ハンドブック—感性をきわめる七つ道具—, 朝倉書店, 1-10.
- 132) 篠原昭・清水義雄・坂本博編著 (1996) 感性工学への招待, 森北出版.
- 133) 曾和具之・岡田有以・前田安菜・葉山恒生 (2007) ワークショップの手法を用いた子どものためのデザイン教育, デザイン学研究 54, 日本デザイン学会.
- 134) Stern, D. N. (1985). *The Interpersonal World of the Infant: A View from Psychoanalysis and Developmental psychology*, New York: Basic Books. (小此木啓吾・丸田俊彦監訳, 神庭靖子・神庭重信訳, 1989, 乳児の対人世界—理論編—, 岩崎学術出版社)
- 135) Stern, D. N. (2004). *The present moment in psychotherapy and everyday life*. New York: W. W. Norton & Company, Inc.
- 136) Stern, D. N. (2010). *Form of Vitality: exploring dynamic experience in psychology, the arts, psychotherapy, and development*. New York: Oxford University Press.
- 137) 杉本覚・岡田猛 (2013) 美術館におけるワークショップスタッフ初心者への認識の変化—東京都現代美術館ワークショップ“ボディー・アクション”への参加を通して—, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (34), 美術科教育学会, 261-275.
- 138) 杉山貴洋 (2002) はじめに, 高橋陽一監修, ワークショップ実践研究, 武蔵野美術大学出版局, 8-11.
- 139) 杉山貴洋 (2002) ワークショップの準備体操, 高橋陽一監修, ワークショップ実践研究, 武蔵野美術大学出版局, 134-145.
- 140) Sullivan, H. S. (1953). *Conceptions of Modern Psychiatry*. New York: Norton & Company. (中井久夫・山口隆訳, 1976, 現代精神医学の概念, みすず書房)
- 141) 砂上史子 (2012) 幼稚園における子ども同士の同型的行動の研究, 白梅学園大学大学院学位論文.
- 142) 関口怜子 (1999) 子どものためのワークショップ—仙台ビーアイ物語, ブロンズ新社.
- 143) 田尻敦子 (2005) ワークショップの三つの危険性とリフレクション: NPO 学習環境デザイン工房のアート系ワークショップに関する状況的学習論に基づく

参考文献

- 省察, 人文科学, 大東文化大学 10, 13-36.
- 144) 高田研 (1996) ワークショップの課題と展望—合意形成と身体解放の観点から, 兵庫教育大学大学院 平成 8 年度修士論文 (未刊行).
- 145) 高木光太郎 (2012) ワークショップの評価, 荻宿俊文・高木光太郎・佐伯 胖, ワークショップと学び 3 まなびほぐしのデザイン, 東京大学出版会, 281-299.
- 146) 高橋直裕・伊藤公象・横尾忠則・太田三郎・スタン=アンダソン・生田萬・飯田鉄・大竹誠・郷泰典・須藤訓平 (2011) 美術館のワークショップ: 世田谷美術館 25 年間の軌跡, 武蔵野美術大学出版局.
- 147) 高橋陽一 (2002) おわりに—ワークショップと教育のあいだ, 高橋陽一監修, ワークショップ実践研究, 武蔵野美術大学出版局, 188-195.
- 148) 高橋陽一・杉山貴洋 (2002) ワークショップ実践研究, 武蔵野美術大学出版局.
- 149) 高橋陽一編 (2009) 美術と福祉とワークショップ, 武蔵野美術大学出版局.
- 150) 高橋陽一編 (2011) 造形ワークショップの広がり, 武蔵野美術大学出版局.
- 151) 高橋陽一 (2012) 造形ワークショップを支える: ファシリテータのちから, 武蔵野美術大学出版局.
- 152) 高尾美沙子・荻宿俊文 (2008) ワークショップスタッフの実践共同体における十全性の獲得のプロセスについて, 日本教育工学会論文誌 (32), 日本教育工学会, 133-136.
- 153) 竹田青嗣 (1993) はじめての現象学, 海鳥社.
- 154) 谷口幹也 (2003) デジタル・メディア社会における〈写す〉ことの意味をめぐって: 美術教育における映像メディア活用のための一考察, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (24), 美術科教育学会, 225-235.
- 155) 谷井淳一・無藤隆・大谷尚・杉森伸吉 (2007) 表現ワークショップの評価に関する質的方法と量的方法, 日本教育心理学会総会発表論文集 (49), 日本教育心理学会, 634.
- 156) Trevarthen, C. & Hubley, P. (1978). Secondary intersubjectivity: confidence, confiding and acts of meaning in the first year, Lock, A. ed. *Action, Gesture, and Symbol*, Orlando, Florida: Academic Press. (鯨岡峻・鯨岡和子訳, 1989, 母と子のあいだ, ミネルヴァ書房, 102-162)
- 157) Trevarthen, C. (1979). Communication and cooperation in early infancy: a description of primary intersubjectivity, Bullowas, M. ed. *Before Speech*, Cambridge University Press. (鯨岡峻・鯨岡和子訳, 1989, 母と子のあいだ, ミネルヴァ書房, 102-162)
- 158) 土田環編 (2014) こども映画教室のすすめ, 春秋社.
- 159) 津守真 (1987) 子どもの世界をどうみるか, NHK ブックス.

- 160) 堤康彦 (2003) アーティストと子どもたちの幸福な出会い, 佐藤学・今井康雄編, 子どもたちの想像力を育む: アート教育の思想と実践, 東京大学出版会, 247-265.
- 161) 堤康彦・坪井香保里・川勝英子・大久保聖子・鳥居いずみ (2003) エイジラス活動記録集 2002 年度, 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち.
- 162) 手塚千尋・茂木一司 (2009) 協同的創造を生み出すワークショップ学習の研究—「屏風ワークショップ@パークレイ 2009」を事例にして—, 群馬大学教育実践研究別刷第 28 号, 群馬大学教育学部附属教育臨床総合センター, 101-107.
- 163) 手塚千尋・茂木一司・曾和具之・柴田あすか (2012) KARUTA ワークショップデザインと RTV, 群馬大学教育実践研究第 29 号, 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター, 63-72.
- 164) Tobin, J. J., Wu, D. Y. H. & Davidson, D. H. (1989). *Preschool in Three Cultures. Japan, China, and the United States*. New Haven and London: Yale University Press, 4-5.
- 165) 友部博教・中村嘉志・沼晃介・須永剛司・西村拓一 (2008) 時間配置と構造配置の融合による活動プロセスの協働リフレクションの実現, 社団法人情報処理学会研究報告, 社団法人情報処理学会, 139-144.
- 166) 東京都図画工作研究会編 (1983) ワークショップへの道, 東京都図画工作研究会.
- 167) Flick, Uwe. (1995). *Qualitative Forschung by Uwe Flick*, Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH, Reinbek bei Hamburg. (フリック著, 小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳, 2002, 質的研究入門—〈人間科学〉のための方法論, 春秋社)
- 168) Vickhoff, B., Malmgren, H. (2004). Why does music move us?, *Philosophical Communications*, Web Series, No. 34 Dept. of Philosophy, Sweden: Goteborg University.
- 169) 渡辺一洋 (2008) 自然素材を使用した造形教育の検討—地域施設と連携したワークショップの実践から—, 育英短期大学研究紀要第 25 号, 育英短期大学, 87-98.
- 170) 渡辺一洋 (2010) 協同描画表現を通じた造形ワークショップ, 美術教育 No. 293, 日本美術教育学会, 46-52.
- 171) 和多利恵津子 (2003) 子どもたちのアートプログラム, 佐藤学・今井康雄編, 子どもたちの想像力を育む: アート教育の思想と実践, 東京大学出版会, 226-246.
- 172) Werner, Heinz. (1948). *Comparative Psychology of Mental Development*, New York: International University Press. (ウエルナー著, 園原太郎・鯨岡峻・浜田寿美男訳, 1976, 発達心理学入門, ミネルヴァ書房)

参考文献

- 173) 柳沼宏寿 (2011) シネリテラシーの教育的意義: シネリテラシーフェスタ in 新潟の取り組みを中心に, 美術教育学, 美術科教育学会誌 (32), 美術科教育学会, 429-439.
- 174) 山田芳明 (2007) 子どもの身体感覚を生かした鑑賞活動についての考察, 鳴門教育大学実技教育研究 (17), 鳴門教育大学, 1-6.
- 175) やまだようこ (2004) 質的研究の核心とは, 無藤隆・やまだようこ・南博文・麻生武・サトウタツヤ編, 質的心理学: 創造的に活用するコツ, 新曜社.
- 176) 山本朝彦 (1993) 感性による教育をめぐる考察, 宮脇理他著, 感性による教育の潮流—教育パラダイムの転換, 国土社, 32-33.
- 177) 山本一成 (2015) 生活のなかで日常を超える: 環境との出会いと自己変容についての理論的検討, 生活体験学習学会発表資料, 生活体験学習学会, 7.
- 178) 矢野智司 (1996) ソクラテスのダブルバインド: 意味生成の教育人間, 世織書房.
- 179) 矢野智司 (2000) 自己変容という物語: 生成・贈与・教育, 金子書房.
- 180) 矢野智司 (2003) 子どもの遊び体験における創造的瞬間, 佐藤学・今井康雄編, 子どもたちの創造力を育む: アート教育の思想と実践, 東京大学出版会, 62-67.
- 181) 矢野智司 (2003) 「経験」と「体験」の教育人間学的考察—純粹贈与としてのボランティア活動—, 市村尚久・早川操・松浦良充・広石英記, 経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か—, 東信堂, 33-54.
- 182) 矢野真・高垣マユミ・田爪宏二 (2008) 造形ワークショップを通じた大学と行政, 地域の連携による子育て支援に関する実践研究, 鎌倉女子大学学術研究所報第8号, 鎌倉女子大学, 45-56.
- 183) 全国美術館会議編 (1997) 全国美術館会議: 教育普及ワーキング・グループ活動報告1 美術館の教育普及・実践理念とその現状, 全国美術館会議.

(参考として掲示した資料)

- ・「特集—WORKSHOP 体験的参加型学習とワークショップ」(1994)『社会教育』(財)全日本社会教育連合会, 平成6年10月発行. (書籍情報は中野民夫(2001)による)
- ・山本育夫編『美術館情報雑誌 Dome』日本文教出版 (1992-2006: 全84号).